

おい図書館



No 134 発行 おい図書館
 代表 青木和子
 松本市牧の原 1-10-418
 TEL 047-311-0886

講演会

図書館ってどんなところ!?

1月18日(日)、女性センター・ホールで、「おい図書館15年の歩み」刊行記念講演会を開催しました。講師は、(社)日本図書館協会の理事の常世田良さん。

「図書館は知的好奇心を満たし、心に安らぎを与えてくれる、情報文化の発信地。この変化の時代にこそ、これまでにない新しい図書館サービスをとの観点から、豊富な資料に基づいての講演でした。市内外の議員の方々も多数ご参加下さり(松本市議9名・他市

2名)、会場は満席。熱気あふれる講演会となりました。ご参加の皆様からも、熱気あふれる感想をたくさん頂きました。その中からご紹介します。

常世田良さんの講演を聴いて

・昔(私が子どもの頃)と現在の図書館の状況が変わってきている事、また求められる事、また求められる事が、よくわかりました。今日頂いた資料をゆっくり読んで、じっくり考えたいと思います。

とても密度の濃い時間を、ありがとうございました。

。以前から希望していた常世田さんの講演会に漸く参加できました。図書館に対する熱い思いが迸り出るような話の流れに、ぐいぐい引き込まれました。

私は未だ浦安市立中央図書館に伺う機会に恵まれず、初めて伺った今回のお話で、目指す図書館のあり方を求める質の高さに驚かされました。正に「目からうろこ」でした。

しかし、一利用者としても、求めたいものは同じです。誰もが利用できる公立図書館からこそ、私たちが希望する情報をスピーディーに得られることを期待したいものです。

インターネットの限界は実感しています。インターネットが本か? ではなく、併用できる環境が必要ですし、図書館相互の連携でスピーディーに情報を求められる。そのようなことを期待しています。

それにしても、高度な知識を持つ、質の高い図書館員とは凄い！と思えました。ハード面もソフト面も、そのように質の高い図書館が松戸に出来れば、どんなに嬉しいことでしょうか！私が利用する近くの分館では、親切にレファレンスして下さる図書館員が居られることだけでも嬉しいです。

出版流通の実態など、全く知らないお話も、大変興味深く伺いました。

貴重なお話を、ありがとうございます。いままで。

。常世田さんの事前の準備のていねいさに敬服。

資料の中身の深さー具体的に幅広く、わかりやすい。実態把握の的確さと、今後どうしていけば良いのかという方向づけまでして下さった。

指定管理者制度について、初の

て少し理解でき、学びたいと痛感しました。

イデオロギーの問題ではないと力説され、議員の方々も参加されたことは意義深く、皆で努力したいとの気持が高まりました。会の係の方々のご尽力に感謝し、共に前向きに行動したいと、その後図書館へも行ききました。熱の持続、学びと実践の大切さを思います。

。資料がキチンと用意され、話の内容も話し方も素晴らしい、2時間がアツという間でした。

日頃利用している松戸の図書館は貸本業だと思っていた私は、大いに納得しました。本来の図書館とはこういう所という見本が一つでも良いから松戸に出来たら、どんなに市民が潤うかと思いました。

図書館を利用する市民が情報

を入手する手段として、もつと図書館員に働いてもらい、仕事にやりがいを感じて図書館をより良くしてもらえると、今日の講演が本当に生きたものになるのでしょうか。それにしても、資料代200円でこの内容ー少し安すぎませんか？

。まず、参加者の顔ぶれをサッと見渡したところ、年令や性別など多岐に広がっていて、流石図書館と思えました。

指定管理者制度について、おぼろげな知識だったので、私なりにわかりました。

野田市の図書館では、本館は市の職員ですが、館長は畑違いの人になり、分館は丸善が入っています。窓口の人はそれなりに業務をこなしていますが、館長には疑問を感じることがありました。

。普段は考えも知りもしない貴重

なお話を聞けて、有意義でした。

図書館とは専門職員が本当に必要の本を探してくれる所というお話になる程とうなずきました。正にそうであって欲しいと切に願います。それには、コスト削減の目的から少数精鋭主義で行くべきというお話―難しい点も多々ある中、実現されるべきと思いました。

私自身が図書館(特に松戸の)に抱いていたイメージ・期待していたものが、いかに質的に低いものであったか、思い知らされました。

。身内に、子供の頃から本が好きで、図書館司書になりたくて司書の資格を得たのですが、働キ口が無くて、現在本屋でアルバイトをしている若者がいます。せっかくの資格を生かせない若い人が多いと聞き、気の毒に思っています。

。イベントがあることを知り、勉

強に来ました。

私は図書館で働く者ですが、まだまだまだ…勉強も足りず知識も無いので、一日の仕事に追われている毎日です。講演会を聞いても知らない事がたくさんあり、かなりおもしろかったです。仕事を通して「今、自分のできる事」を考えていきたいと思えました。



ありがとうございました!!

。今日は、とても楽しみになりました。ありがとうございました。

浦安市立中央図書館を訪れたことがあります。すばらしく、松戸も今後頑張りたいと思えました。

できれば、すばらしい司書に

なるにはどうしたらよいか?どのよう勉強が必要か?知りたかったです。

。我が国ばかりでなく、情報の世界的な観点を含めての講演内容で学ぶこと・識ることが大変多く、参考になりました。

昭和一ケタ末の時を過ごし、本の無い貧しい日本を経験しています。それだけに、今までの図書館の存在価値を「本から情報を得るため」として利用してきました。

今日の電子化でどのように展開するか?実際にはまだまだ理解が不十分です。

よろしくご指導下さい。

。まちづくりに於ける図書館機能のあり方に、大納得と大賛成です。私は個人的な問題で市民相談課に伺いましたが、常識的な話の対応で問題解決になりました。

治療の折の医者と対応でも、古い学会的なデータで指摘するだけで、個々の患者別の思想視点が乏しく、私が自分の事として最新情報で反応し、気分が良くありませんでした。

公共も専門職も「上から目線」が多過ぎる日本社会だと思えますし、私は自立のウラにある責任で元気に生きて行く決意です。

「目からウロコ」の学習会を企画した「おーい図書館」に敬意を表します。

。常世田さんのお話は前にもお聴きしたことがありますのに、今また更に「目からウロコ」という思いです。「おーい図書館」の一員でありながら、強く認識していません。私を含め多くの市民が、必要な資料を図書館にもっと要望していかなければいけないかなと思います。

後半の話でも、市の財政・人材の正しい使い方がこうあるべきだという事がよくわかった。

議員さんもみえていたようなので、もっと議会で取りあげて、本当に住みやすい・住んで得する市、市民が豊かに暮らせる市をめざしてほしい。もう少し頭が良く、市民の気持が読める市長が欲しい！

。図書館に限らず、民営化の問題は、大変に大きな課題であります。

建物のみでなく、今後の中身の問題を検討してゆかなければならない事を実感して帰ります。松戸の図書館発展のために働いてまいります。

ありがとうございます。

。図書館に求める機能というものの認識を新たにすることができ

ました。また、先進的な事例も、しっかり学んで行きたいと思えました。

私は一期生議員ですが、議員としての図書館の活用も見直していくべき事を痛感しました。

。図書館の機能の充実が、現在の社会にとって切実に必要であるということがわかりました。また、指定管理者制度ということについても、わかりやすい説明で、様々な点を把握することができて、本当に勉強になりました。

。図書館のあり方や、必要とする情報をどこで得られるかなど、構造的な問題について考えさせられました。

今後活動が維持されて、多くの人々にこのお話が広まれば、今後の市民や議員の考えも大きく変わり、良い方向へ進んで行くので

はないかと思えます。

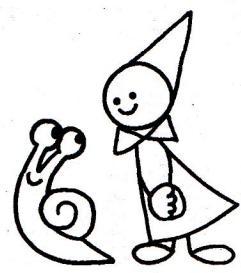
の最高でした。共に参加した方々と一緒に、お話に興奮してしまいました。

特に医療や戦争の例示が分かりやすく、命にかかわる問題を図書館が扱い解決することができるというエッセンスが伝わり、多くの人が図書館に切実な希望・期待を持つのだと思います。

常世田氏の世界から発せられる言葉の重みが、深く体中に浸み渡りました。

私をはじめ図書館についてわからない事が多い者達でも、常世田氏のお話を聞いて新しい情報を受け取ると、部分的にでも理解する事ができるといふ実感から、日本人へ今回は多くの松戸市民の理解力はまだまだ捨てたものではない、むしろ高いのではないかと、少し思いました。

継続的な講演・会の発展を強く望みます。



投稿

伊藤和子

常世田さんのお話は、明快至極！要点がキチンと説明されているから、私のような無知モーマイの徒でも、実に判り易い。

あんなに物ごとの本質を、レベルの高い処から平明に話される方は少ないのではないかと、いつも聞き終わったあと、感心してしまいます。

図書館に対する熱い思いを持ち続けておられる常世田さんの熱弁を聴けば、きっと誰でも従来の図書館のイメージが変わる

と思います。眼からウロコが落ちるといふ感じがすると思えます。特に若い人達に聴いて貰いたい。何故、従来のイメージ通りの「本をただ貸してくれる処」というだけでは駄目なのか？図書館は貸本屋ではないのです。知識人でもそこで満足している方が結構多いと思えますが、その町に住む人達に必要な情報・知的要求に応えてくれる処が図書館なのです。そして、企業したい人に必要な情報が得られる処なのです。

アメリカでは、毎日図書館に出勤して情報を集め、仕事をしている人達が多い由なる程、頭が良し！事務所費がいらないもの！等々。何回聴いても、常世田さんのこのお話には笑ってしまいます。しかし、面白がってはかりもいられない程、現実の松戸の図書館は貧しくて、殆ど絶望しかかっていたのですが、このところ少し明

るさを感じています。それは、若い市議さん達が熱心に浦安図書館を見学したり、常世田さんのお話を聴きに來られているからです。

この方達が刺激を受けて、少しでも行政を動かして下されば、現実が変わるのではないかと、大いに期待しています。要は税金の使い方だと思つたのです。

道路に使うのか？文化の程度を高めるために使うのか？

暮らして役立つ誇れる素晴らしい図書館を欲しいと願っている市民の数は、市長をはじめ行政が思っているよりもずっと多しと多い筈ですよ！と言いたいです。

「松戸よみうり新聞」の石田記者が講演会を取材し、記事にして下さいました。転載を快諾して頂き、またので、以下に掲載します。

よりよい図書館求め

「おーい図書館」が15周年

松戸市によりよい図書館をつくることを目指して活動している

「おーい図書館」(青木和子代表)が15周年を迎え、このほど記念誌を出版。これまでの会報や新聞報道、資料などをまとめたもので、B5版462ページ。

また、先月18日には前浦安市立図書館館長で(社)日本図書館協会理事の常世田良氏が出版記念講演を行った。常世田氏は松戸市在住で、同会の会員でもある。

常世田氏は、医療の問題などを例にあげ、「医者と議論するだけ」の情報を持っているか、命をも左右する。そういう情報があるのは図書館だけ。「図書館はみなさんが本を探すところではありません。専門の図書館員が専門の情報を探して、みなさんに提供するものが図書館」などと話した。また、図書館の情報取得を断念したことか

は前浦安市立図書館館長で(社)日本図書館協会理事の常世田良氏が出版記念講演を行った。常世田氏は松戸市在住で、同会の会員でもある。

常世田氏は、医療の問題などを例にあげ、「医者と議論するだけ」の情報を持っているか、命をも左右する。そういう情報があるのは図書館だけ。「図書館はみなさんが本を探すところではありません。専門の図書館員が専門の情報を探して、みなさんに提供するものが図書館」などと話した。また、図書館の情報取得を断念したことか

【戸田 照朗】



記念講演会で講演する日本図書館協会理事の常世田良氏

